

他校の取組事例

I 工業科に普通科を併置した学校

1 京都府立田辺高等学校

- (1) 沿革 昭和 38 年 創立、工業科を設置、昭和 51 年普通科を併置
- (2) 学校規模 普通科 1 学年 5 学級、工業技術科 1 学年 3 学級、自動車科 1 学年 1 学級
- (3) 学校の特色
 - 「服装指導」、「挨拶指導」、「言葉遣いの指導」を実践
 - ・ 多くの来校者から、「生徒の服装がきちんとしている」、「元気に挨拶をする生徒が多い」等の評価。
 - 多様な進路希望を実現
 - ・ 四年制大学への進学割合が増加傾向にあり、国公立や難関私学への入学者も増加。
 - 豊富な求人と就職内定率 100%
 - 一人ひとりに即したきめ細かな指導
- (4) カリキュラム
 - ① 共通
 - 資格取得に向けた各試験の対策講習会を開催。
 - キャリア教育として、「職業・就業に関わる体験活動」と「交流に関わる体験活動」を 2 本柱にして体験活動を教育課程に位置付け。
 - ② 普通科
 - 1 年次からアドバンストコースとスタンダードコースを設置
 - ・ アドバンストコースは大学進学コースで、2 年次から文系と理系の選択科目を履修することで、それぞれの進路希望に応じた早期の学習に対応。
 - ・ スタンダードコースは基礎基本の定着を目指すコースで、英語・数学だけでなく、国語の授業も学力別講座編成。普・工併設の利点を生かして、2 年次から選択科目として、普通科の生徒も工業の授業を受けることができる。
 - 週に 2 回の 7 限授業を実施。
 - 進路希望の実現のため、様々な進学補講の選択が可能。
 - ③ 工業科
 - 「一泊研修」、「土曜授業」、「基礎学力充実講座」、「CSR（企業倫理）学習」、「インターンシップ」、「就職・進学セミナー」、「大学生教育ボランティアによる日曜学習会（工業系進学希望者対象）」、各種資格検定等を実施。
 - 工業技術科の特徴
 - ・ 1 年次は共通履修し、2 年次から技術探究コース、機械技術コース、電気技術コースから選択。*H27 年度から各コースを学科に改編
 - ・ 技術探究コースは、大学・企業との連携により先端技術に触れながら創造的技術の探究学習を行い、大学進学後の研究等を見据えたその基礎を培う。
 - 工業技術科及び自動車科における「土曜授業」
 - ・ 平成 25 年度入学生より、京都府教育委員会から「教育課程特例校」の指定を受け、第 1 学年において、月 2 回程度の土曜授業を行っている。
 - ・ 基礎学力ならびに技術の基礎・基本を習得させることに重点。
 - ・ 各種資格取得や検定の学習の充実。

- 国の研究指定校「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育事業」
 - ・ 平成26年度から28年度までの三年間
 - ・ この事業は、工業に関する専門学科の生徒を対象
 - ・ 平成27年度からは、「授業のユニバーサルデザイン化」、「自立活動」の観点を取り入れ、「工業に関する専門学科の生徒のためのスタディスキルトレーニング（仮称）」、「ソーシャルスキルトレーニング（仮称）」、「ライフプランニング（仮称）」などの「ライフスキルトレーニング」授業の研究開発を実施。

II 普通科の高校と工業科の高校を統合した学校

1 熊本県立水俣高等学校

- (1) 沿革 平成19年10月 県立高等学校再編整備等基本計画
計画期間平成19年度から27年度の9年間
前期・中期・後期
(水俣高校と水俣工業高校は平成23～24年度の中期計画)
平成22年1月 県立高等学校再編整備等中期実施計画
平成22年4月 水俣地区新設高校開設準備室設置
平成23年7月 県教育委員会において「県立高等学校再編整備等中期実施計画」の一部が修正され、校地を現水俣工業高校とすることが決定
平成23年10月 熊本県立水俣高等学校設置
平成24年4月 開校
- (2) 学校規模 全日制 募集定員280名(普通科4学級、商業科1学級、
機械科1学級、電気建築システム科1学級)
定時制 募集定員40名(商業科1学級)
- (3) 学校の特徴
- 手厚い学びのサポート
 - ・ 習熟度別授業や少人数指導によるきめ細かな指導を行う。
 - ・ 丁寧な指導の下、技術や知識を確実に身に付ける。
 - 地域と連携したキャリア教育や環境教育
 - ・ 地域の企業等の協力を得ながら、就業体験等を実施する。
 - ・ 大学訪問、工場見学、進路講話、出前講座などの取り組みにより進路意識を高める。
 - ・ 「日本の環境首都」水俣市唯一の高校として環境教育に取り組む。
- (4) カリキュラム
- 週2回普通科のみ7限目を実施。
 - 総合選択制により学科を超えた科目選択を実現。
- ① 普通科
- ・ 進学体制を充実させるために、特進クラスを設ける。
 - ・ 3年次では、国公立大、私立大、医療・看護等の進路別類型により、習熟度別の教科指導など個に応じた進路指導の充実を図る。
 - **特進クラス(1年次よりハイレベルな授業を行い、国公立大学を目指すクラス。)**
 - ・ 早朝・休日課外、個別指導、模試の解説など、丁寧な指導による学習サポート体制
 - ・ 学習合宿、大学訪問など学習意欲を向上させる様々なプログラム
 - ・ 部活動と両立できるように、部顧問と連携を図る
 - **普通クラス(基礎学力を育て、4年制大学、短大、高専などの上級学校を目指すクラス)**
 - ・ 総合選択制により、進路に合わせた科目が選択できるカリキュラム

- ・ 部活動にしっかり取り組むためのサポート体制
- ・ 早朝・休日課外、個別指導など学習をサポートする体制
- ・ 上級学校説明会、学習合宿などの学習意欲を向上させる様々なプログラム

② 商業科

- ・ 地元経済団体等に協力いただくなど、地域に根ざしたビジネスの学習。
- ・ 資格取得・検定合格を目指す。(簿記、ワープロ、情報処理、電卓等)
- ・ 商業科の推薦枠を生かした国公立大学への進学を目指す。

③ 工業科

○ 機械科と電気建築システム科（電気コースと建築コース）

- ・ 実習等を通してものづくりの技術を習得
- ・ 工業に関する知識や技術を生かして地域に貢献
- ・ 資格取得・検定合格を目指す。

(5) 現状と課題

- 本年度、卒業生を輩出する。進路指導を強化、実績を問われる年度である。
- 総合選択制について
 - ・ 学科の枠を超えて選択できる科目を設置したが、他科の科目を選択する生徒が少ない。
 - ・ 普通科の生徒が、商業科、一般家庭科の科目を選択するケースは見られる。
- 統合後の志願者の動向
 - ・ 新設校になった後も、定員割れの状態である。予測より少ない入学者数である。

※数字は入学者数

学科	H 2 4	H 2 5	H 2 6
普通科 定員 1 6 0	1 0 9	1 0 8	1 1 2
商業科 定員 4 0	4 0	3 3	2 1
機械科 定員 4 0	4 0	3 4	2 6
電気建築科 電気コース 定員 2 0	2 0	1 2	1 3
電気建築科 建築コース 定員 2 0	1 7	1 9	1 3

- ・ 地域外へ出ていく生徒を確保するために、学校のPRを充実させる。
- 各学科、コースの独自性は保たれているが、融合した取組はまだこれからである。
- インターンシップは商業科、工業科のみで実施している。普通科への広がり是从これからである。
- 生徒数増により部活動は充実した。
- 体育館の新設、新教室の建設、設備の充実など新設、改修によるイメージアップがある。